Association for the University Evaluation

第21号（2009－1） 2009年5月1日

大学評価学会通信

目 次

◆ 第6回全国大会、盛会のうちに終わりました …… 1
◆ 第27回研究会が開催されました …… 3
◆ 次回研究会のご案内　会費納入のお願い …… 4
◆ 第５号年報送付の案内、第６号の投稿募集 …… 5
◆ 第６回年次総会報告 …… 5
◆ 会計報告 …… 8
◆ 学会日誌 …… 9

第６回全国大会、盛会のうちに終わりました

第6回全国大会のご報告

大学評価学会事務局

大学評価学会第6回全国大会は、3月14日（土）、15日（日）の二日間、名古屋大学教育学部（東山キャンパス）を会場に開催されました。

大会テーマは「認証評価の効果を問う―現実を直視しヤル気がでる評価を目指して―」で、第一日目に３人のシンポジストをお迎えしてシンポジウムを行いました。二日目は午前・午後に別れて４分科会が行われました。テーマは、第Ⅰ分科会「大学評価の中の職員、大学づくりの中の職員」、第Ⅱ分科会「社会から見た大学力評価」、第Ⅲ分科会「法人評価について」、第Ⅳ分科会「自由論題報告」でした。

二日間で延べ160人以上（実参加113人）の参加で、稔りある成果をあげることができました。

開催に際して、ご尽力いただきました開催校の名古屋大学のみなさまに心より御礼申し上げます。
また、開催にあたって、財団法人大幸財団から助成をいただきました。大幸財団に対しても厚く御礼申し上げます。

大会最終日の総括討論

いつも和やかで熱い懇親会

第６回全国大会をふりかえって

大学評価学会事務局長　重本直利

第6回大会は、全国大会として東海地区ではじめて開かれた。大会会場の名古屋大学は、出身者（3名）のノーベル賞受賞を祝う横断幕が大きく掲げられていた。3月14日（土）、15日（日）、教育学部で開かれた大会は、両日にわたっての参加者数は165名を数えた。大会テーマ、「認証評価の効果を問う―現実を直視しヤル気がでる評価を目指して―」の趣旨は、2004年から始まった認証評価制度が5年目に入り、現時点でその効果を問うことにありました。現時点で、あらためて評価とは「何のため・誰のため」に行うのかを明らかにすることでもあった。また、評価の取り組み、そのシステムおよび「評価環境」の現実を直視し、その解決策を探っていく中で「ヤル気がでる評価とは何か」を共に考える大会となった。

このテーマの下、シンポジウムでは、田中一昭氏（大学基準協会・専務理事）が「認証評価の現状と課題」、伊藤敏弘氏（日本高等教育評価機構・評価事業部長）は「大学の改革・改善に資する認証評価を目指して」、日永龍彦氏（山梨大学・大学教育研究開発センター教授）は「高等教育政策を評価できる認証評価を目指して」の報告があった。認証評価の目的が教育・研究等の改善にあるにもかかわらず、現実はそれにつながるような取り組みとはなっておらず、認証評価そのものが目的となっていることの問題点、また政策評価の視点の重要性が指摘された。評価の取り組みにすべての大学構成員が自律的に参加すること、評価が教育・研究等の改善につながるという実感がもてるようになること、効果的な項目の設定とシステムの構築が必要であるとの論点が出された。またこれらの取り組みを支援するということが認証機関の本来の役割であることが確認された。コメンテーターの中村征樹氏（大阪大学）は、現在抱えている問題点として、行政、大学、大学人、アカデミック・コミュニティに「事態を変えていくような政策と社会へのコミットメントの欠如」を指摘し、その上で、質保証・改善につながる取り組みの中身、これまでの自己点検・評価の取り組みの歴史の再評価、人事・予算への反映が本当に「ヤル気」につながるのか、高等教育政策への反映という論点が提示され、活発な議論が行われた。シンポジウム終了後の懇親会は、和やかな雰囲気の中、多くの人が発言し、交流を深めた。

翌日は分科会が予定どおり開かれた。第Ⅰ分科会は、「大学評価のなかの職員、大学づくりのなかの職員」で、「掲げた目的が見えない国立大学法人の人事評価制度」、「大学組織における学生の位置づけ」、「大学の地域貢献にむけた職員の役割」についての報告の下に行われた。特に、人事制度改革・評価制度は各大学で行われており、その問題性の評価が大きな論点となった。あらためて職員の役割の大きさ、重要性が確認された。

第Ⅱ分科会は、「社会からみた大学力評価」と題して行われ、社会は、現状の、そしてこれからの大学をどのようにみているのであろうか。また、大学外の様々な立場の方から現代の「大学力」を評価し、社会が大学力をどう見ているのかについて活発な議論が行われた。ジャーナリスト、ＰＴＡ会長、企業経営者の方々の現場報告に基づいた活発な議論となった。

第Ⅲ分科会は、「法人評価について」をテーマにし、何のための法人評価か、大学のステークホルダーにとってそれはどのような意味をもつものか、法人評価をめぐる論点が整理された。また、最近盛んに行われている大学における財務格付けの意味について活発な討論が行われた。現職の学長、学部長、財務格付け会社の方の報告はリアリティのある内容であり、今後の課題が明確になった。

第Ⅳ分科会は自由論題５件の報告が行われ、それぞれのキーワードは、「ＯＥＣＤにおける大学ガバナンス概念」、「学士課程教育」、「高等学校における学校評価」、「評価される医療職養成課程」、「ＰＤＣＡサイクルは大学評価に適合するか」といったタイムリーな内容であった。今後の大会自由論題分科会の一層の充実が期待される。

最後に、恒例の「総括討論」の全体集会で各分科会の座長が論点を報告し、参加者の共通理解に資する場となった。閉会の挨拶は、大会実行委員長の植田健男理事が行い、大会を締めくくる内容となり、盛会のうちに終了した。

この大会は本学会の役割の大きさが一層明確になってきていることを感じさせる大会となった。大会実行委員はじめ名古屋大学関係者の皆さんに御礼を申し上げたい。

付記；次回、第７回全国大会は2010年3月東京国際大学（早稲田サテライト）で開催されます。

大学評価学会大会に参加して

名古屋大学教育学部一年　永井領児

「評価」という二文字に惹かれ、今回、高校生（三年生）という立場ではありましたが、お誘いがありましたので参加させていただきました。分からないことばかりで、戸惑うばかりでしたが、皆さんに気軽に声をかけていただいたり、また、私の質問に対しても分かりやすく教えていただけ、私自身にとって本当に貴重な経験となりました。ありがとうございました。これからの大学での学びに、活かしていきたいと思っています。

この学会は、全国の大学から、また、様々な専門分野の方々が集まっておられることで、多角的に問題に取り組むことが出来、そのような場に一般の市民の方々をも含めて、和気藹々とあるべき「大学の姿」を語り合える「開かれた場」だと感じました。

現在、いたるところで「評価」が行われてはいるのですが、（一番身近なものは学校づくりアンケート等でしょうか）形のみにこだわりすぎている気がします。また、今のシステムが、本当に、実際の学校づくりに活かされているのかどうか疑問に思います。「評価」は本来、より良い学びが行なわれるのを保障するためにあるのではないでしょうか？ 改めて意義そのものから考え直す機会だと思います。

大学評価学会は、各教育機関でまっとうな「評価」が行われるよう、これからも新しい提案を発信し続ける場なのだと感じました。今後、機会がありましたら是非とも参加させていただければ、と思っています。

またいつかお会いしたいです。（附属にもいらしてください）これからもご指導ください。

第27回研究会が開催されました

2009年度に入って最初の研究会が４月18日（土）に開催されました。通算27回の研究会は、会員の藤原隆信さんの他、教員評価が専門の勝野正章さんをお迎えし、次のような内容で開催されました。

藤原隆信氏（京都経済短期大学）「国際理解教育の実践－京都経済短期大学の事例」
勝野正章氏（東京大学）「学校における評価文化と遂行性（performativity）」

いずれも興味深い内容であり、報告後には活発な質疑応答が行われました。なお、お二人の報告の内容は、研究会を共催した、龍谷大学国際社会文化研究所の指定研究（細川グループ）の研究成果に収録される予定です。

次回の研究会は、8月下旬に開催される予定です。

８月29日（土）に事務職員の問題に焦点をあてた研究会を開催します（於：キャンパスプラザ京都（京都駅前））。（次ページのお知らせをぜひご覧ください）

前日（８月28日（金））にも、科研費（重本グループ）、龍谷大学国際社会文化研究所の指定研究（細川グループ）との共催で、研究会を開催する予定です。こちらについては、韓国から研究者を招聘する予定です。いずれも、詳細については、次の「学会通信」（7月下旬）で、ご案内します。

次回研究会のご案内

次のとおり、第２８回研究会を開催いたしますので、ご参加ください。

日時　８月２９日（土）１３時～１６時３０分
場所　大学コンソーシアム京都（キャンパスプラザ京都）
テーマ　「ステークホルダーとしての大学職員の役割と可能性
～ＦＤ・ＳＤ、学生、地域連携の観点から～」
講師　岸本恵次郎さん（愛知大学監査室長）
深野政之さん（京都ＦＤ開発推進センター、専門研究員）他

概要　大学の枢軸理念が、伝統的な教員中心主義から学生第一主義に移行したことに伴い、大学を巡るステークホルダー（利害関係者）も、保護者、卒業生、地域社会、企業などへ重層的な広がりを見せつつある。これからの大学職員には、これら多様なステークホルダー間の利害を調整し、彼らの大学への期待を充足させるという重要な責任が生じてきたともいえよう。

今回の研究会では、１）教員や学生との協働を含む職員の地域連携、２）教員との連携と職員の独自の役割をあわせた職員による学生支援、３）教育力の形成、開発といった領域からの新たなFD活動の構築、といった諸点からステークホルダーとしての大学職員の役割を実践されている三人の方をお招きした。

大学職員の仕事を見直し、職員の仕事の評価を考える新たな視点を共に探究する機会としたい。

大学評価学会年会費納入のお願い

5月中旬を目処に、2009年度学会費の請求をさせていただきます。過年度の分をお支払いいただいていない方については、あわせて請求させていただきます。よろしくお願いいたします。

学会財政担当　細川孝（事務局次長）
612－8577　京都市伏見区深草塚本町67　龍谷大学
e-mail：hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp
電話・Fax：075（645）8634＜ダイヤルイン>

学会年報『現代社会と大学評価』第5号の送付 ならびに第6号の投稿の募集について

「学会通信」21号とあわせて、会員のみなさまに、年報、第5号をお送りいたします。今号は、昨年3月に開催された第5回全国大会のシンポジウム「大学教育の『質』をどう扱うか－評価と多様性－」における3本の報告の他、研究会の記録などが収録されています。ぜひご一読ください。

さて、年報、第6号を2010年3月に刊行すべく、編集委員会では取り組んでまいります。残念ながら第5号には、投稿論文を掲載することはできておりません。編集委員会としては、会員のみなさんに積極的に投稿いただくよう呼びかけます。投稿については、次のように定められています（「投稿規程」）。

> 投稿希望者は、年報発行前年の7月末日までに、氏名、所属、職名（大学院生の場合は課程、学年など）、住所、電話、Fax、e-mailアドレス、論文・書評などの別、予定のタイトル・枚数を書き、編集委員会まで申し込むこと。

原稿提出期日は9月末日となっています。投稿規程および執筆要領は、『現代社会と大学評価』第5号に掲載しております。また、学会のホームページでもご覧いただけます。会員のみなさんの投稿をお待ちしています。なお、編集委員会事務局は、第6号から次のとおりとなります。

〒560－0043 大阪府豊中市待兼山町１－１６
大阪大学　大学教育実践センター 中村征樹研究室気付
e-mail ： masaki@cep.osaka-u.ac.jp

大学評価学会 第６回年次総会 議事録

日時：2009年3月14日（土）13:30～14:20
場所：名古屋大学・東山キャンパス・大講義室

＜審議事項＞

１）議長選出（理事から井上理事＜愛知東邦大学＞と会員から石井会員＜名古屋大学＞の２名が選出された）。

２）2008年度活動総括（案）について

＜研究会活動の経過＞

1　第24回研究例会（6月28日、龍谷大学）
岡山茂氏（早稲田大学）「サルコジ大統領の下でのフランスの大学改革」

2　第25回研究例会（8月30日、キャンパスプラザ京都）
＜午前の部＞平井孝治氏（元立命館大学）「大学評価とＰＤＣＡサイクル―『学士課程教育の構築に向けて』の批判的検討―」※　龍谷大学国際社会文化研究所・指定研究（細川グループ）との共催です。

＜午後の部＞シンポジウム「あらためて、大学職員の専門性を問う」

1）田村幸男氏（関西外国語大学事務局長、前国立大学法人山形大学理事（財務、ＥＭ担当））

2）塩野博雄氏（立教大学職員）

3）楯一也氏（名城大学職員、名古屋大学大学院生）

③第26回研究例会（11月15日、東京国際大学・早稲田サテライト）

1）「新教育基本法法制と大学改革」世取山洋介氏（新潟大学）

2）「2008学習指導要領の質的変化と構造」梅原利夫氏（和光大学）

3）「『自律的』なアクレディテーションの可能性―日本とアメリカの大学評価の変遷から考える―」日永龍彦氏（山梨大学）

＜通信の発行および出版活動＞

・『通信』は４回発行。

・年報第５号の刊行は2009年4月の予定（年報編集委員会）であるが、編集委員会から積極的な会員投稿の呼びかけがあった。

＜その他、会合および諸活動＞

・第Ⅲ期第１回理事会（3月16日、大阪大学）

・事務局（会計、組織）引き継ぎ（5月 8日、龍谷大学）

・第１回事務局会議（5月31日、龍谷大学）

・第2回事務局会議（6月19日、龍谷大学）

・第３回事務局会議（7月29日、龍谷大学）

・第２回理事会（8月31日、龍谷大学）

・事務局担当(常任)理事・事務局(第４回)合同会議（10月27日、龍谷大学）

・第３回理事会（11月15日、東京国際大学・早稲田サテライト）

・財政担当事務打ち合わせ（12月2日、龍谷大学）

・第５回事務局会議（1月23日、龍谷大学）

・会計監査（3月7日、龍谷大学）

・会員有志による共同研究活動（龍谷大学国際社会文化研究所（指定研究）および科研費共同研究・基盤研究（ｃ））として、5月「韓国大学改革・評価調査」、9月「ドイツ・オーストリア大学改革・評価調査」を実施。また、11月14日「認証評価機関訪問調査」（大学基準協会、日本高等教育評価機構）を実施。

・2009年3月14日現在の会員数253人（正会員246人,協力会員7人＜団体会員3を含む＞）

⇒以上、すべて承認。

3）2008年度決算（案）および監査報告（別紙参照）

・別紙書面に基づき、細川事務局次長から2008年度決算（案）の報告説明があった。また、監査報告は、会計監査人の斎藤敏康会員と塚田亮太会員からの学会費の徴収に努力することの要望とともに書面での説明がなされた。

⇒以上、２件承認。

4）2009年度活動方針(案)について

＜研究会等の開催予定＞

・研究例会の開催（年３回）。以下研究例会の開催日程。

第27回研究会；4月18日（土）（龍谷大学）

第28回研究会；8月29日（土）職員問題の研究会（キャンパスプラザ京都）

第29回研究会；11月に東京で開催

＜委員会などの諸活動＞

・韓国の大学関係者との交流（8月下旬頃の予定）

・国際人権Ａ規約第13条問題特別委員会（略称；13条特別委員会）他団体との協力・共同関係の推進、外務省・文部科学省への働きかけなど。

・シリーズ本3巻以降の刊行（以下「出版活動」参照）。

・専門委員会は「プロジェクト委員会」として以下の出版活動としてシリーズ本各巻編集委員会に取り組む。

・その他。

＜出版活動＞

・シリーズ本各巻毎の編集委員会（第３巻以降）による刊行案（以下、すべて仮称。発売は晃洋書房。定価は1000円～1500円（税別）の間で設定。ページ数は100～150ページ程度。刊行時期は順次）。

『国際人権Ａ規約第13条と大学評価』関連（担当；細川事務局次長）

『職員評価問題』関連（担当；村上理事）

『大学評価基本用語100』（担当；共同責任編集）

『アカデミック・ハラスメント第２弾』（担当；熊谷理事）

『科研費細井グループの報告書』関連（担当；細井理事）

『ＰＤＣＡサイクルは大学評価に適合するか』（担当；重本理事）

『学生参画の大学評価』（担当；未定）、この件に関わって、高校の評価と生徒参加を含めた高大連携に関する検討の必要性ついての意見が出された。

⇒以上、すべて承認。

５）2009年度予算（案）について（別紙参照）

・細川事務局次長から別紙に基づいて提案があった。質疑は特になし。

⇒以上承認。

６）第Ⅳ期理事選出(2010年3月)のための選出管理委員の選出について（定数２名）

・理事会から、次期理事選出(2010年3月)の選出管理委員として、竹内眞澄会員（桃山学院大学）、由井浩会員（龍谷大学）の提案があった。

⇒以上承認。

７）第７回全国大会について

・開催日時：2010年3月13日（土）～14日（日）

・開催場所：東京国際大学・早稲田サテライト

・大会テーマおよび報告者は2009年9月頃までに決定する。

・なお、理事会から第8回全国大会は関西地区での開催の方向で準備したいとの提案があった。

⇒以上承認。

８）その他

・田中昌人学会記念賞に関して選考委員会の碓井委員長から提案があり、募集は５月頃、2009年9月末締切で取り組みたいとの提案があった。

以上。

2008年度決算（2008年3月1日～2009年2月28日）

1．収支決算表（2008年3月1日～2009年2月28日）

	2008年度予算	2008年度決算	
前年度繰越金	1,287,088	1,287,088	
会費収入	1,520,000	1,114,000	
年報・シリーズ本販売売上	461,000	75,000	
雑収入	0	334,500	大会、懇親会、予稿集
〈収入合計〉	3,268,088	2,810,588	
理事会費	200,000	152,997	理事交通費、昼食代等
年報・シリーズ本編集費	1,400,000	647,634	編集経費、印刷費等
会報・リーフレット作成費	50,000	113,400	第Ⅲ期リーフレット
通信費	200,000	131,504	メール便、切手代等
大会・研究集会費	500,000	581,210	全国大会、研究会費用
事務用品費	40,000	43,474	封筒代、シール代等
支払手数料	30,000	23,105	郵便振替手数料他
予備費	848,088	29,200	会計業務委託
〈支出合計〉	3,268,088	1,722,524	
〈次期繰越金〉	0	1,088,064	

2．貸借対照表（2009年2月28日現在）

資産		負債	
現金	60,443	次期繰越金	1,088,064
郵便振替口座	1,027,621		
合計	1,088,064	合計	1,088,064

会計監査報告書

2009 年 3 月 7 日

監査報告書

大学評価学会 御中

2008 年度（2008 年 3 月 1 日～2009 年 2 月 28 日）大学評価学会の決算を本日監査いたしました。帳簿、証憑はすべて正確に処理されていることを認めます。
なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますよう要望いたします。

以上

会計監査人 斎藤 敏康 印

会計監査人 塚田 亮太 印

2009年度予算（2009年3月1日～2010年2月28日）

	2009年度予算	2008年度決算	2008年度予算
前期繰越金	1,088,064	1,287,088	1,287,088
会費収入	1,520,000	1,114,000	1,520,000
年報・シリーズ本販売売上	701,000	75,000	461,000
雑収入	0	334,500	0
＜収入合計＞	3,309,064	2,810,588	3,268,088
理事会費	200,000	152,997	200,000
年報・シリーズ本編集費	1,367,500	647,634	1,400,000
会報・ﾘｰﾌﾚｯﾄ作成費	50,000	113,400	50,000
通信費	200,000	131,504	200,000
大会・研究会	500,000	581,210	500,000
事務用品費	50,000	43,474	40,000
支払手数料	30,000	23,105	30,000
委託費	100,000	0	0
予備費	811,564	29,200	848,088
＜支出合計＞	3,309,064	1,722,524	3,268,088
＜次期繰越金＞	0	1,088,064	0

注）

1．会費納入は、会員数を240名（現職教職員215名、現職教職員以外20名、協力会員5名）とし、納入率約80％で、予算計上した（@7,000×170＋@3,000×15＋@1,000×5＝1,240,000円）。
過年度分については、40名分（@7,000×40＝280,000円）を計上した。

2．年報・シリーズ本販売売上は、年報（@2,000×0.4×300＝240,000円）の2号分（第４号、第５号）とシリーズ本（@1,300×0.4×300＋@1,300×50＝221,000円）を計上した。

3．年報・シリーズ本販編集費は、年報第５号印刷費（367,500円）、同第６号編集経費（200,000円）、シリーズ本第３巻の印刷費（300,000円）、同第４巻の印刷費（300,000円）、シリーズ本の編集費（200,000円）を計上した。

4．委託費は、会計業務に関するものである（2008年度は、予備費から支出した）。

【大学評価学会の日誌】

2009年

3月 7日（土）　会計監査（於：龍谷大学）
3月14日（土）～15日（日）第6回全国大会
3月14日（土）　第Ⅲ期第4回理事会
3月15日（日）　第Ⅲ期第5回理事会
4月18日（土）　第27回研究会（於：龍谷大学）
5月 1日（金）　第６回事務局会議

＜今後の予定＞

8月29日（土）　第28回研究会（於：キャンパスプラザ京都）

＜編集後記＞

あれ？第1面に「味付けのり」？それとも「黒い膏薬」が2枚ぺたり。大会の写真を載せてみましたが、白黒印刷では真っ黒になってるのでは？19号にK・マルクスの有名な文章の写真を初めて載せてみましたが失敗でした。そして今回。研究します。

新年度が始まりました。皆様いかがお過ごしですか。３月に行われた恒例の全国大会、とても有意義な2日間でした。担当校の名古屋大学のみなさまはじめ参加された方、大学評価学会関係のみなさま、ありがとうございました。今回、参加者の中で最年少の高校生（当時）、永井領児さんに大会の感想をよせていただいています。若い方が真剣に大学問題をとらえておられることには脱帽します。

学会年報 第5号『現代社会と大学評価』が出来上がりました。また、今年度から、学会共同事務局として大阪大学望月研と龍谷大学重本研の所在地を巻末に掲載いたします。

今回はシリーズ「大学評価をめぐる動向」はおやすみです。次号をお楽しみに。

次にお会いできるのは、まだまだ残暑厳しい？京都。お元気でご活躍ください。

（な）

編集・発行： 大学評価学会　共同事務局
〒560-0043　豊中市待兼山町1-16
大阪大学・大学教育実践センター
望月研究室 気付
e-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67
龍谷大学 重本研究室 気付
Tel：075(645)8630 (重本)・8634(細川)
e-mail: sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp
URL：http://www.unive.jp/
〈会費納入先〉郵便振替口座番号：00950−4−296005　名称：大学評価学会